
The Hybrid World

MoonRabbit

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The Hybrid World

【コード】

N2509BA

【作者名】

MoonRabbit

【あらすじ】

新しく始まる学園生活。

そこは戦いの日々が始まりだった！？

先祖民族「ヒューマニア」

古い歴史を持ち、エルフに文明をもたらしたとされている。
体力面に強く、力を得意とする。

現地民族「エルフ」

ヒューマニアとの接触により急激に発展した種族。
知力に長け、魔法を得意とする。

そして、その2つの種族から生まれた

優位混生種族「フェアリーズ」

2つの種族の力を持つ子供たちが、学園生活の先に見た世界とは！
？

学園生活編1（前書き）

こんにちは

MoonRabbitです！

えー今回は初投稿になります。

拙いところ文章力もろもろあるとおもいますが、ご指摘いただきました
く存じます。

今後に期待ということできなにとぞよろしく願います。

ジャンルからしてファンタジー系ということ

ライトノベル系の感覚で進めていけたらいいなと思っています。

よろしく願います。

クロノの腰に張り付いたままミアが答えた。

「えへへ、だって久しぶりだったから、つい！」

クロノに抱き起こされたミアは抱きついた衝撃で髪型は多少崩れてはいるものの、綺麗な金髪ショートカットで多少毛先にカールがっかっかいて、どこかお嬢様っぽい品格をかもし出している。

「久しぶりって、昨日会っただろ、昨日！」

反論しながら、吹き飛んだ周りの机を直す。

「昨日！？昨日って、もう10時間も前じゃない。そんな10時間も経ったら私寂しいじゃない！」

はいはい、といった表情でアランも手伝って机を直し終わると、3人して2つの席に座る。

クロノと椅子を半分にして満足げなミアがふと、アランに向きなおした。

「ところでアラン、私たちは春の大会には出られるのかしら？」

「だーから。全然ダメ。昨日も話しただろ？俺ら”鎖付”に付き合う命知らずな連中なんてそうそういつこねえって。」

「えー。だってそれを見つけてくるのがあなたの仕事でしょー？」

ミアは明らかにクロノへとは違う不満の目をアランに向ける。それに反応したアランが2人でいい争いを始めた。

「そのことについてなんだけど」

「

クロノがふいに切り出す

「なんとか、なるかもしれないぜ？」

クロノの目線が窓際の席に向いてるのを見て、2人も同じ方向を向く。

クロノのふくらはぎにつねられたような激痛が走ったのはその1秒後だった……。

学園生活編 2

「では、自己紹介を・・・じゃあ席の廊下側から順番にしていこうか」

教壇に立った女性教諭が、入学初日の教室にやっと初々しい行事を持ち込んだ。

大体、初日なんてものは席順が決められていて、名前のアルファベットの順に並べられてることが多い。

この学校も例外ではなく、ファミリーネームがAから始まる生徒が通路側から並んでいた。

「名前と出身地域、あとは適当に趣味とか話せばいいからね。あ、チームに所属していたらそのチーム名と宣伝とか、してもいいわよ」

と、自己紹介に困る生徒に諭す女性教諭。

(さつきはじめに自己紹介してたっけかな。名前なんだっけ)

そう思いクロノが教室の前にあるモニターのようなものを見ると

”ミアン・ラデュレ”

とかがれている。

(ラデュレ先生?・・・ミアン先生でいいか・・・)

「えっと・・・」

はじめの生徒がやっと自己紹介を始めた。

特に興味を惹く自己紹介もなく、もうすぐクロノの番といったところで前のアランの自己紹介になる。

「アラン・ファングラッド。もちろん出身はここフェアリーズ国際学校のジュニアハイスクールからです。趣味・・・は特にないけど！今チームメンバーを1名募集してまーす。」

アランがちらっと窓際の席に視線を向ける。
が、ポニーテールの女性は無反応だった。

「チーム名”F”」

アランがそう言うとかすかに教室内がどよめきたった。

「よろしく」

そういつて座ってクロノに合図をする。
隣にはなぜかミアアがまだ座っていた。

「はい！ミアア・プロヴァンスです！」

ミアアが元気よく自己紹介を始めると
ミアン教諭が怪訝な顔をする。

今気づいたのかよ。と内心突っ込みたいクロノではあったが流石に自分の席を共有されている身としては釈明せざるをえなかった。

「こいつCクラスなんです。ミアン先生。つれてってください」

そうクロノが言い放つと、ミアアがむくれた表情でクロノを睨んだ。

「ああ、そうなの・・・ミアさん？Cクラスも授業が始まっているかと・・・」

そついい始めると、教室の扉が突然開き放たれた。

「ミアさん！やっぱりここにいた・・・！あなたはCクラスなんですよ！早く帰りましょう。あたしが恥をかくじゃないですかー！」

そつ勢いよく入ってきた女の子がミアを強引に連れて行く。

「あかりも大変だな・・・」

アランのつぶやきにクロノが深々と相槌を打った。

クラスの自己紹介もあらかたを終え、窓際の最後の席に移っていく。そこには例の彼女がいた。

「月見里涼子「ちまなし」「しよん」です。チームには・・・所属しておりません・・・」

以上だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2509ba/>

The Hybrid World

2012年1月6日14時50分発行